

2026年9月16日

各位

株式会社 大垣共立銀行

OKB SCLAMB×岐阜大学「第4回産学連携交流会 Crouch!」 ～「食・健康・生命」の新たな可能性を拓く～の開催

大垣共立銀行（頭取 林 敬治）は10月15日（木）、国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学（学長 吉田 和弘）と共同で「OKB SCLAMB×岐阜大学『第4回産学連携交流会 Crouch!』～『食・健康・生命』の新たな可能性を拓く～」を下記の通り開催します。

今回は、「食・健康・生命」をテーマに、食品製造プロセスのモニタリングや腸内細菌、人工抗体、ヘルスケア、畜産・感染症などの分野における、社会課題の解決や新たな技術開発につながる岐阜大学研究者のシーズを紹介します。

新たな事業発展を望む地域企業と大学研究者との交流により、OKB SCLAMBの重点取組の一つである「地域企業と岐阜大学との共同研究の推進」を目指します。

記

■概 要

タ イ ト ル	OKB SCLAMB×岐阜大学「第4回産学連携交流会 Crouch!」 ～「食・健康・生命」の新たな可能性を拓く～		
日 時	2026年10月15日（木） 15：00～17：00		
場 所	OKB SCLAMB〔岐阜市柳戸1番1 OKB岐阜大学プラザ2F（岐阜大学内）〕		
内 容	オープニング 応用生物科学部 概要説明 ○岐阜大学 応用生物科学部 副学部長 柳瀬 笑子 氏 【第1部】 各研究テーマ紹介 ○応用生物科学部 研究者6名 【第2部】 ポスターセッション ○研究者と研究テーマをもとに個別交流 【第3部】 交流会		
対 象	大学との共同研究などオープンイノベーション創出に興味がある事業者		
定 員	20名（先着順、1社2名まで）		
参 加 費	無 料		
申 込 方 法	右記の専用ページからお申し込みください		
	https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeL5hHFSdPsCwX0r47t9F_Jogp3LX6d-04CZQ6eJaUEih7sCg/viewform?usp=header		
申 込 期 限	2026年10月13日（火）		
主 催	OKB大垣共立銀行、岐阜大学		
お問い合わせ先	OKB大垣共立銀行 法人営業部 高田・土本 T E L：0584-74-2196 メールアドレス：sclamb@okb.co.jp		

以 上

「食・健康・生命」の新たな可能性を拓く

参加
無料

2026 10/15 Thu 15:00-17:00

場所 OKB SCLAMB (岐阜市柳戸1-1 岐阜大学内
OKB岐阜大学プラザ2階)

定員 20名(先着順)1社につき2名さままでとなります

申込期限 10月13日(火) お申し込みはコチラ



今回の Crouch! は・・・

Crouch!とは、大学の「研究」と企業の「技術・アイデア」をつなぐ、産学連携交流会です。

研究者によるショートピッチやポスターセッションで研究シーズを知り、研究者と直接意見交換することで、「自社の技術と組み合わせられないか」「新たな事業につながらないか」など、産学連携の可能性を探ります。

今回は岐阜大学応用生物科学部と連携し「食・健康・生命」をテーマに、食品、腸内細菌、人工抗体、畜産・感染症などの研究シーズをご紹介します。

セッション参加メンバーと研究テーマ



ミクロの世界を
可視化・制御する
人工抗体創出技術

応用生命化学科
教授 中川 寅 氏



ラマン分光法による
食品製造プロセス
モニタリング

食農生命科学科
准教授 今泉 鉄平 氏



犬猫の
腸内細菌叢を
標的とした
ディスバイオーシス
診断・治療法の開発

共同獣医学科 准教授 永田 矩之 氏



腸内細菌培養系を
活用した
食品・機能性素材の評価

応用生命化学科 准教授 稲垣 瑞穂 氏



バイオエアロゾル解析に
基づく畜舎微生物リスクの
可視化と乳房炎予防

食農生命科学科 助教 侯 建建 氏



見えない
動物ウイルスを捉える
—流行株に対応した
診断技術の開発—

共同獣医学科
准教授 中川 敬介 氏

詳しくは裏面へ

こんな企業さまにおすすめです!

右記以外の企業の方も申込可能です

食品 機能性食品 分光・分析機器 診断・検査
遺伝子解析 製薬 ヘルスケア バイオテクノロジー

OKB SCLAMB×岐阜大学 第4回産学連携交流会 **Crouch!**
「食・健康・生命」の新たな可能性を拓く

スケジュール概要

挨拶

15:00-15:05

応用生物科学部 概要説明

応用生物科学部 副学部長
柳瀬 笑子 氏



第1部

15:05-15:30

各研究テーマ紹介

ミクロの世界を可視化・制御する人工抗体創出技術

応用生命化学科 教授 中川 寅 氏

人工抗体(VHH抗体/ナノボディ)の無細胞創出技術を紹介します。人工合成遺伝子を活用することで、多様な分子を標的とする人工抗体を迅速に設計・探索できます。酵素や機能性タンパク質との融合により、検出・診断や機能制御に利用できる新たなバイオツールとして、製薬・食品・ヘルスケア・農業・環境分野への応用が期待されます。

腸内細菌培養系を活用した
食品・機能性素材の評価

応用生命化学科 准教授 稲垣 瑞穂 氏

腸内細菌をヒトの健康を支える代謝生態系として捉え、ヒト由来腸内細菌を用いた in vitro 培養系による素材評価を行っています。腸内細菌叢や発酵特性の解析を通じて、健康維持に関連する指標の探索や食品・機能性素材の作用評価に取り組んでいます。

ラマン分光法による
食品製造プロセスモニタリング

食農生命科学科 准教授 今泉 鉄平 氏

食品製造では、加熱や冷却などの加工に伴って食品中の成分組成が変化し、製品品質や機能性に影響を及ぼします。本研究では、食品にレーザー光を照射して得られる分子構造由来のラマンスペクトルを利用し、食品製造プロセスにおける成分・品質変化を可視化・評価するモニタリング技術の開発に取り組んでいます。

バイオエアロゾル解析に基づく
畜舎微生物リスクの可視化と乳房炎予防

食農生命科学科 助教 侯 建建 氏

牛舎の空气中を漂う微生物(バイオエアロゾル)をはじめ、粉じん、牛床、乳頭表面、乳汁中の微生物を培養法およびDNA解析により可視化します。さらに、乳房炎原因菌や薬剤耐性遺伝子の分布を、温湿度・換気等の環境データと統合して解析し、乳房炎リスクの早期把握と予防に資する衛生管理技術の構築を目指します。

犬猫の腸内細菌叢を標的とした
ディスバイオーシス診断・治療法の開発

共同獣医学科 准教授 永田 矩之 氏

犬猫の慢性消化器疾患の病態解析および新規診断・治療法について研究しています。特に、腸内細菌叢の構成異常(ディスバイオーシス)を評価する新たな診断マーカーの開発と、糞便移植療法やプレ・プロ・シンバイオティクスによる腸内環境改善法の確立を目指しています。

見えない動物ウイルスを捉える
— 流行株に対応した診断技術の開発 —

共同獣医学科 准教授 中川 敬介 氏

鶏の重要な感染症である鶏伝染性気管支炎ウイルスは変異を繰り返すため、従来の検査法では流行株を見逃す可能性があります。本研究では、ウイルスの遺伝情報を解析し、現在の流行に対応した診断技術を開発することで、感染症の早期発見と養鶏現場の被害低減を目指しています。

第2部

15:30-16:30

ポスターセッション

第3部

16:30-17:00

交流会

大学との共同研究など、オープンイノベーション創出に興味をお持ちの企業さまのご参加をお待ちしています!

主催: OKB大垣共立銀行・岐阜大学

お問い合わせ

オープンイノベーション創出支援拠点「OKB SCLAMB」

住所: 〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 OKB岐阜大学プラザ2F(岐阜大学内)

時間: 10:00~18:00(土・日・祝休日除く)

メールアドレス: sclamb@okb.co.jp

